詞苑叢談集

詞花和歌集巻第一

春

堀河院御時百首哥たてまつりけるに
[illegible]

大蔵卿匡房

[illegible]

寛和二年内裏哥合に霞をよめる

藤原惟成

[illegible]

天徳四年内裏哥合によめる

平兼盛

[illegible]

道命法師

[illegible]

曾禰好忠

[illegible]

冷泉院春宮と申しける時百首哥たてまつりけるに

源重之

[illegible]

[illegible]

鷹司殿の七十賀に屏風の日

[illegible]

右源宗門

百代の色よりひろれる日ぞ[illegible]

たのしきす

新院法勝寺

子日すと[illegible]

梅花遠薫と云ふを

源時綱

吹ぬれば[illegible]

梅の花[illegible]

右[illegible]

梅の花白ひとえ[illegible]

後恵法師

[illegible]

[illegible]

僧都覚雅

[illegible]

天徳四年内裏歌合に梅を

平兼盛

[illegible]

題左大臣の家に歌合にあり

源重之

いとゝかれぬ小萩の末に風にしもしたりし人を思ひ出

古今の柳と同じ

源道湖

高雲にたつとの柳とうくしたりしをあさ緑にも

野にしては　源頼政

三月末の柳とて見し柳はいかにかはれる

京極御左大臣の家の歌合にあり

康資王母

もゝとせをたゝ一日とぞ思ふ

紀のつらゆきの花ぞうつろひにけるとよめる

これ歌合にあり大納言行成卿

の梅をゝりて

出てとゝまりしをとゝまれとよめる

康資王母

白雲は立ちまとふとも紀のつらゆきの梅をゝりてとゝまれ

康資王母

出て雲はとゝまれとてはかなくも

あるべき歌合にあり

一宮紀伊

[illegible]

大蔵卿匡房

白雲とみるまでにほふ桜かな

兼暦二年内裏歌合

山桜咲しより月の白雲かかるかと

大納言公實卿

[illegible]

九重にかかる白雲と見てすぐる大内山のさくらなりけり

前参議院生[illegible]

戒秀法師

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

白川の[illegible]

[illegible]

[illegible]

白河院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花の行すゑとは櫻をぞ思ふ散りぬる

源師賢朝臣

一條院御時すゑ八重櫻をとゝのへ

とゝのへ散りぬるものは花をも

題にて奇しくあるべきをとわるもれ

伊勢大輔

いかなりしのすゑ数の八重櫻をゝれ

新院の御せ事ありく百首の中

なるべきにもれ

右近中將長房朝臣

白雲よりつゝみ山櫻ちらすを波をまねとこそ

人とあまてこそ櫻をてこそ

おもくゆるくあり

源重平

櫻花をこそ折て見るべきをいとゝ

ゆるしいとす

道命法師

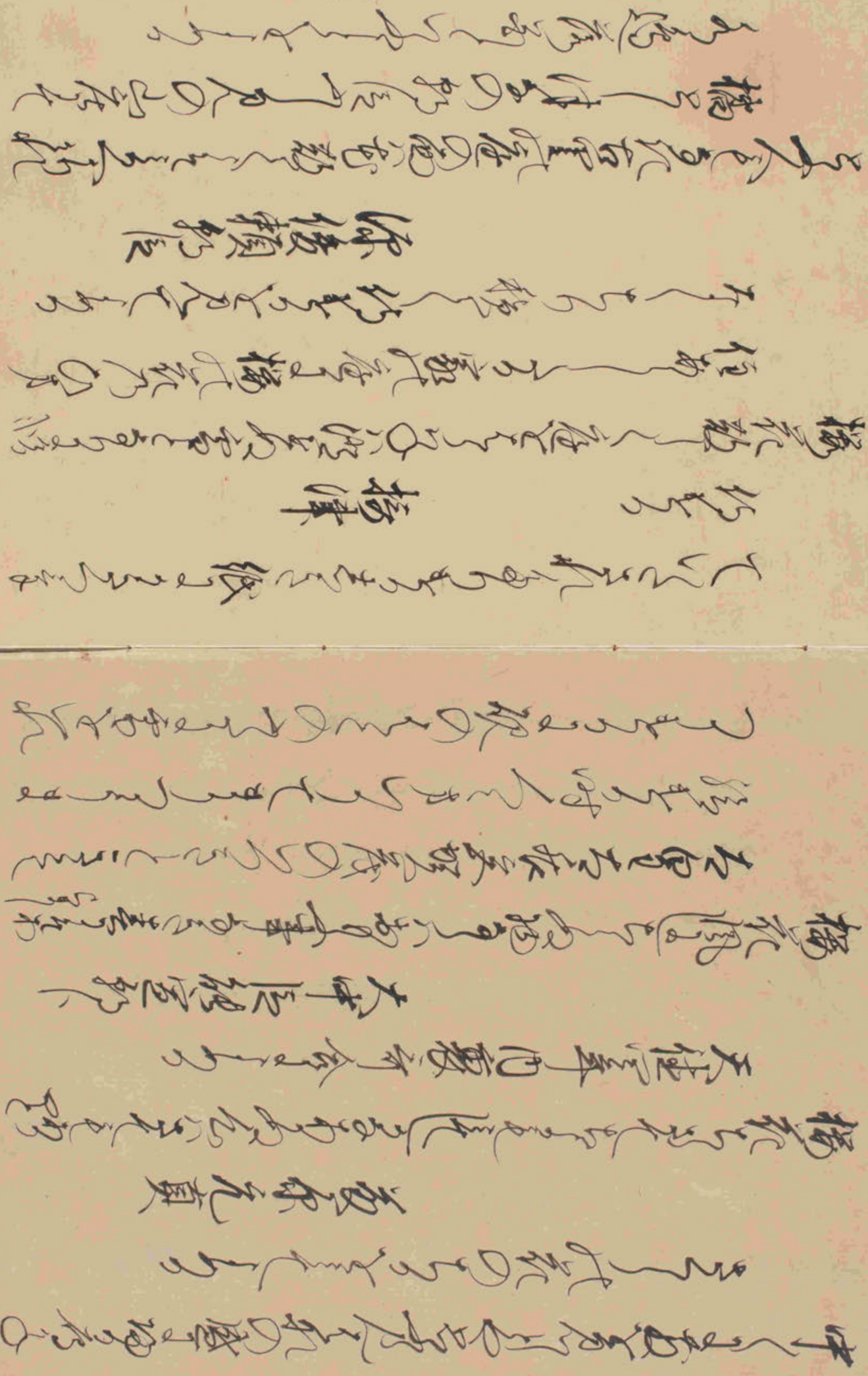
春ゝ不見の花をこそ今をゝ咲初るゝ花

ゆゑとあり

勝尾大臣

白雲の花の白や海ゝ月ゝ海ゝ

源忠季



梅咲きぬれば沈みて歌をよみて花の間をとれば
前右近衛房前公の家にまうで来る人
梅をしるしとしるべとする

前右近衛永房公

歌花を春とあるを人をやはなをうつすとおもふを
庭の梅に歌を詠みてしるしまゐらせる
ひとり

花山院法制

我宿に梅をうゑたりけるを人をまゐらせられ
さくらのちるをなげくとある

源俊頼朝臣

月にいでて梅をよめるを我宿に梅をうゑたりけ
るを花をなげくとあるを

花園左大臣

庭をせよ梅の花をとあるを花の盛を
面白しとあるを　大中臣能宣朝臣

歌花をせよとあるを山の雪をうつすを

寛和二年内裏の歌合よりあり

前右近衛長能

一重にあるを白ひとへにしてくれなゐなる山吹の
花

藤原長能

藤原為頼の家の歌合よりあり

よミ人しらす

八十ちかくなりて花のちるをみても惜しと云々

堀河院御時百首奉りけるによめる

大納言公実

この人と待つ山風よ心あらはちらさて花をしはしとゝめよ

新院くらゐにおはしましし時牡丹をよ

ませ給ひけるによみてたてまつりける

関白前太政大臣

咲しより散はつるまて見し程に花のもとにて廿日へにけり

老人惜春といふ事をよめる

橘俊綱

老ぬれは春の惜さハまされ今いくたひもあはしと思へは

三月盡日人〳〵のとのゐしけるを

て春の暮ぬるをおしませ給ひける

よませ給ひける

新院御製

おしむとてこよひかきおくことの葉やあやなく春のかたみなるへき

詞花和歌集巻第二

夏

卯月の一日にまゐり

源基法師

たちくるとなほしらくもの山ぢかみ

たいしゝ

源俊頼朝臣

雪ふるとみるまでさくらちるかぜに

紅葉のはなはさくらにまがふ

法勝院長官にて行きつのおはる盛に

かもの祭れつゝ行きとのゝ

ゝ人のいをせくとてまれに語る

大義の長房

年をへぬ逢ひみてのちの時さへ

神まつりをしまつり

源道昌

榊とる袖にもちるはなびらを

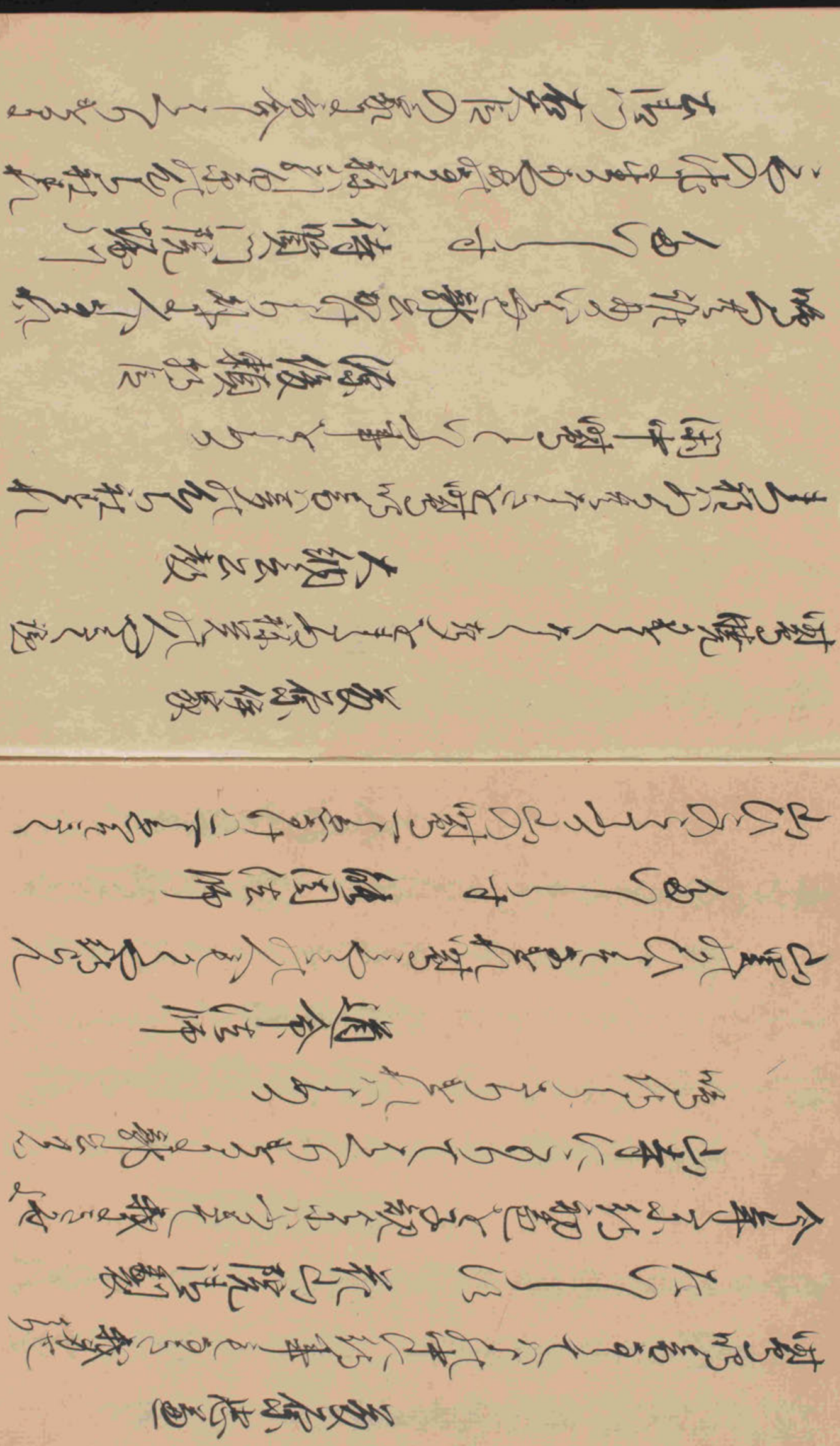
郭公を行くとまつる

国房内行

青あをとわれらの我身に対するまつりをそなへ

関白の太政大臣の家のまつりの事を

のゝ十首つくる也行きつゝ



[illegible]

源頼家卿

[illegible]

皇嘉門院御方

[illegible]

[illegible]

大蔵卿局

[illegible]

[illegible]

源忠季

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言通俊

[illegible]

[illegible]

良暹法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花山院内閣

[illegible]

まてしこれもあれをみんとくらしつ

藤原経衡

うちとくる堀川白に桜花の色あひて霞も庭

綱丸大臣の家にて歌合し侍りける

によめる

修理大夫顕季

様まほしきみる桜花盛りしてわきあるはきえも見

寛和二年内裏歌合によめる

大蔵卿

明ぼのもここえる秋の出たる山里のこゑよりもなるなる

六條右大臣家歌合し侍りけるによめる

よみ人しらず

夏関の川よりまさる夏の日もいまだ夏なき室のよる

水邊納涼といふ事をよめる

藤原家経朝臣

風ふけば河への涼しくよる波の立ちかへるべき社なき

たいしらず

藤原好忠

杣川の筏のとこのうき枕夏はすゞしきふしどなりけり

長保五年入道前太政大臣の家にて

歌合し侍りけるによめる

源兼澄

詞花和歌集巻第三

秋

題しらす　　　曽祢好忠

山城のとはたの面を見渡せはほのかにけさそ秋風はふく

津のくにゝすみ侍けるころ大江為基任はてゝ
のほり侍りけれはいひつかはしける

僧都清胤

君すまはとはましものを津のくにのいくたの杜の秋の初風

七月七日式部大輔資業かりにて
よめる

橘元任

荻のはにすかく糸をもさゝかには七夕にとや今朝はかく覧

御くしおろさせ給ひて後七月七日
よませ給ひける

花山院御製

七夕に衣もぬきてかすへきにゆゝしとやみむ墨染の袖

長暦二年内裏歌合によめる

藤原顕綱朝臣

七夕はのちのけふをもたのむらん心ほそきはわか身なりけり

題しらす　　　加賀左衛門

いかなれはとたえそめけん天河あふせにわたすかさゝきの橋

新院の御願をこゝろあらく百首所奉
けるなり[illegible]

左京大夫[illegible]俊

寛和二年内裏歌合よしあり

大中臣能宣朝臣

[illegible]川[illegible]

七夕[illegible]

源重大夫[illegible]

天河なほ橋[illegible]

橋[illegible]

[illegible]の山[illegible]七夕

[illegible]

良暹法師

逢事[illegible]

七夕[illegible]

[illegible]

藤原頼綱朝臣

[illegible]

祝部成仲

[illegible]

三条大[illegible]八月十六夜

水上月といふ事をよめり

[illegible]　　源頼

[illegible]　　右大臣

いにしへ[illegible]月[illegible]秋[illegible]照[illegible]

家[illegible]今[illegible]

[illegible]　　左衛門督家成

[illegible]秋[illegible]月[illegible]照[illegible]

月[illegible]

[illegible]　　三條院内侍

秋[illegible]月[illegible]

[illegible]　　天長[illegible]

[illegible]秋[illegible]

関白前太政大臣家[illegible]

[illegible]　　菅原重基

秋の[illegible]月の光[illegible]

ひえの山[illegible]念仏[illegible]月[illegible]

見[illegible]

[illegible]　　良暹法師

[illegible]秋[illegible]月

東[illegible]太政大臣家[illegible]

秋の月のひかりをそえて出るを行くと人と語りて
関白おほきおとど家にあるに八月十五
夜月をながめてよめる

源頼綱朝臣　摂津守

ひかりをそえてすみのぼる月の
雲のつばさ家成の卿の家にて会に行く

藤原清隆朝臣

秋の夜の月をみるに月をもて思ひをはるかに
ながめやる

隆縁法師

月と行くこころをよめる

大江嘉言

海辺の月行くて見ればいくしほ山とうら波
月深山をいでぬるかをよめる

藤原忠通

嵯峨山の清涼殿の八月十日の夜
寛和二年内裏にて会ありしに侍りし

花山院清涼殿

秋夜の月をながめて
こゝろしる人はなくとも月はなほ
こゝろあるかぬ　源道济

旅ねする宿は荻のそよ風もて渡る秋の夕暮

大江嘉言

荻風はふきそしや秋風吹かすとも寝覚やまつきくなる

和泉式部

秋ふくはいかなる色の風なれは身にしむ計哀なるらん

曾禰好忠

三吉野のきさ山陰にたてる松いく秋風にそなれきぬらん

藤原頼綱朝臣

荻のうへに露吹結ふこからしの音そ夜寒になりまさるなる

こゝろをよめる

源道済

冬ちかく精もえんしは初瀬山入相の鐘に道にて

法橋へまうてけるにさかの花ありし

ろくさかくちらぬをおりけるてよめる

赤染衛門

秋の野の花見る程の心をはゆくとやいはんとまるとやいはん

かくものいひさとこさして行ける時本院の

まへいけるにわさうほの花咲けるを

行きけるをよめる

禖子内親王

秋はなるよひとてはかなきものよりも心とゝまる白露のあや

堀河院御時百首歌たてまつりける時

隆源法師

うゑおきし人もなきには蘭（ふぢばかま）なれぬる野辺のにほひなりけり

白河院鳥羽殿にて前栽あはせさせ給ひけるによめる

周防内侍

あさ露におきわけ見つる萩の花こぼれてまさる袖の白露

新補王

萩原に事問ふ人もなきものを秋の野ことに露そおきける

たいしらす

曽禰好忠

旅の野の草村ことに虫の音ハ泣く虫の洞かなし

永源法師

八重葎茂れる宿ハ終夜虫の音きくそとりところなる

和泉式部

鳴虫のひとつ声にもきこえぬハこゝろ〳〵に物やかなしき

こゝろ（ち）ハ身の住へき所かハおもひのほかに鈴虫の鳴ける

きゝそあかれ

橘為仲朝臣

古里ハかれゆく草の鈴虫のこゑにあはれそまさる秋の色

天禄三年女房合歌

橘正通朝臣

雁鳴くと聞くは雲のうへなれど
弱道をたづねつるかな

大納言道房

わが宿の松ぞ千代をいくさの神ぞいて特
永祚五年二月会歌

生昌卿

同人のもとにやどりの藤ぞ我書を社思て詠
ものしりしらず

源俊家

秋萩を花の枝よりなびかせて
九月十三夜月照菊花

新院御製

ながめやるかな

秋つゆ花の菊に咲ぬれば
冥加ぞ長寿家ぞくるあり

源雅光

あるじしてこそ白菊の花の色を歌ふ
色いろしるし

道命法師

七年又咲つゝ花ぞ社うつる菊にぬ花をもあ

[illegible]と[illegible]の[illegible]
[illegible]大[illegible]白川[illegible]見行[illegible]
いと[illegible]

曾祢好忠

堀河右大臣

閑[illegible]人[illegible]
[illegible]の安[illegible]紀[illegible]
[illegible]の[illegible]行[illegible]
四[illegible]山[illegible]紀[illegible]

橘俊元

いて[illegible]紀[illegible]
[illegible]二村の[illegible]

寛治元年十月[illegible]
[illegible]

大蔵卿匡房

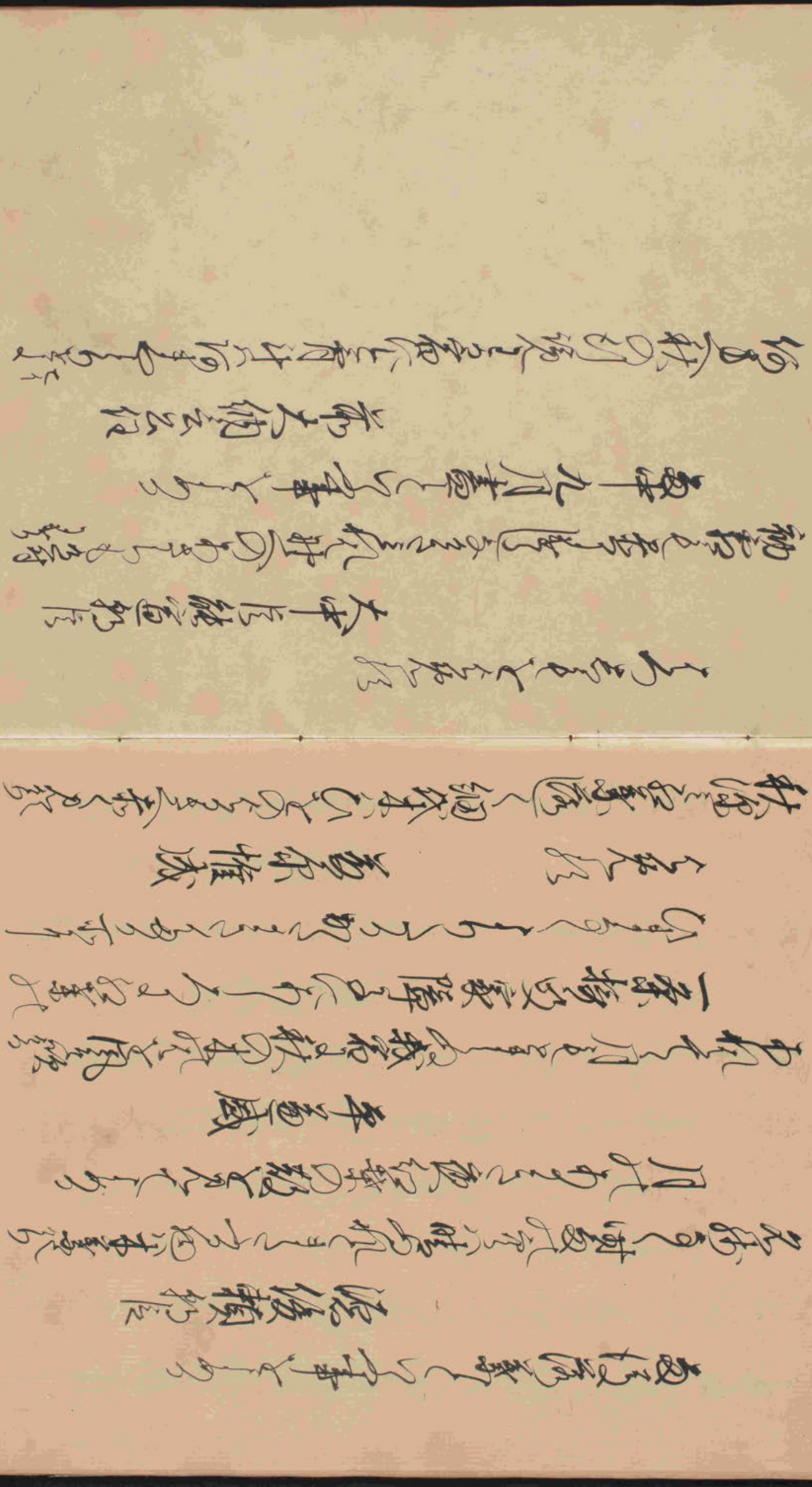
[illegible]紀[illegible]
[illegible]

曾祢好忠

[illegible]
[illegible]秋の[illegible]
[illegible]
[illegible]寺[illegible]秋
[illegible]紀[illegible]
[illegible]

道命法師

[illegible]秋[illegible]紀[illegible]



詞花和歌集巻第四

冬

題不知　　曾禰好忠

紅葉をもみてぬれたる袖にかけてかはるもの思ふ秋の夕暮

家の歌合に　　大弐資通

時しもあるものとは知るを秋の来てとりてうらみぬ人しなければ

　　左京大夫道雅

ふるさとの山の紅葉は散りはてぬ梢にのこる秋の夕暮

山深み落て積もる紅葉をば踏わけてこそ人は問ふべき

　　藤原清正朝臣

　　惟宗隆利

ちぎりおきしたのもしさにたのめこそ木ぬれの月を待ちあかすべ

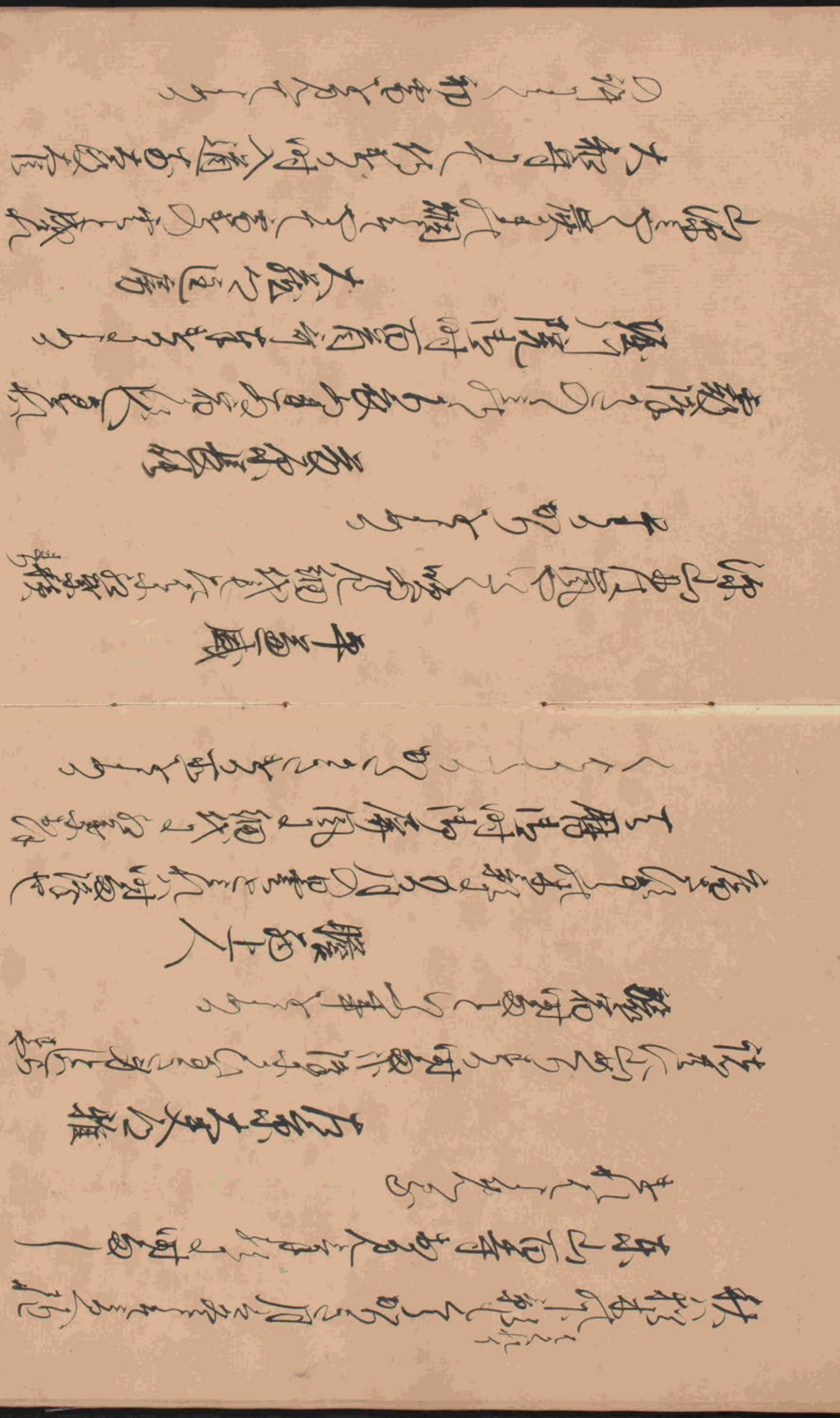
落葉をば踏わけてこそ問ふべきと言ふ事をもあるかな

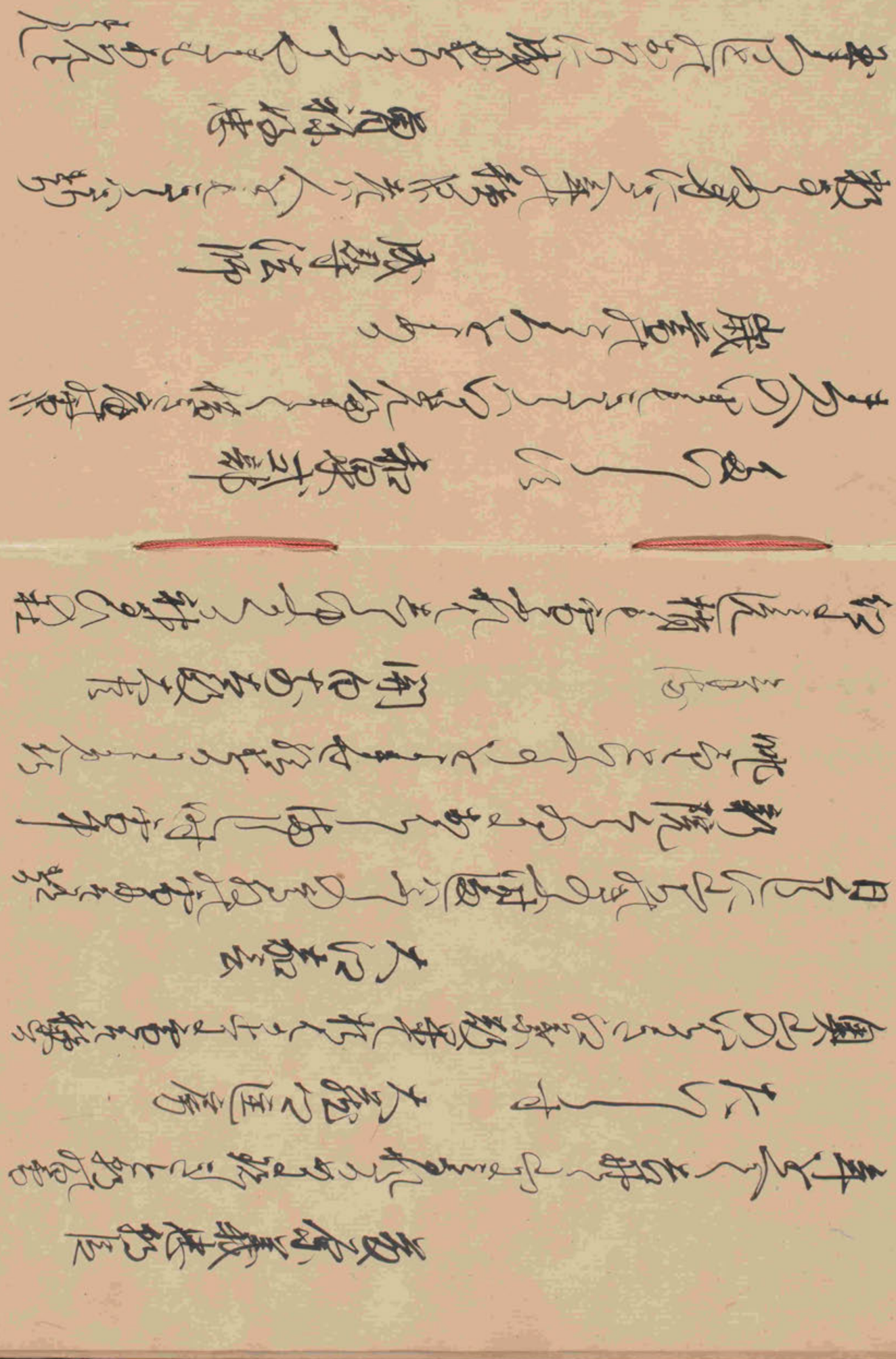
風吹けば松のもとにぞ敷かるる

野　　侍

　　曾禰好忠

外山の紅葉を散らす時雨の音にあらぬ人ぞ思ひ出でける





詞花和歌集巻第五

賀

一條院上東門院に行幸せさせ給ひけ
る時

入道前太政大臣

君が代は阿武隈川の底迄も千とせを重ねてとこしへに
四月一日に人々に物さはの
[illegible]

侍従大納

一条左大臣の家の障子に書き侍りける

[illegible]

大中臣能宣朝臣

京極前太政大臣家に歌合せ侍
[illegible]

住房

君が代は日[illegible]三笠山[illegible]限り
長元八年宇佐前太政大臣の家に
歌合せ[illegible]

能因法師

春の代をかぞへそめけん筑波根に雪ふりつもる海ぞ遠き

あいしゅす　赤染衛門

御簾をまくれば雪ふりて新つる年の代をかぞへ見

三条右大臣賀の屏風に絵をかれる

ふるとしの人うらやましかりけるかな

中務

わかそのゝ梅もかをりつゝ春をまちてをりつゝ

河ゝ人のゝ三人よりてせをうらをもて

ゆゝしの日つゝもの

きよつらのもとにて

松浦の海ゝ人のゝ河ゝ人のゝ三人よりてせをうらをもて

ゆゝしの日つゝもの

長徳元年四月晦日右大臣家歌合

ひもとく

後冷泉院御製

長流の玉藻の花ぞ咲ぬる

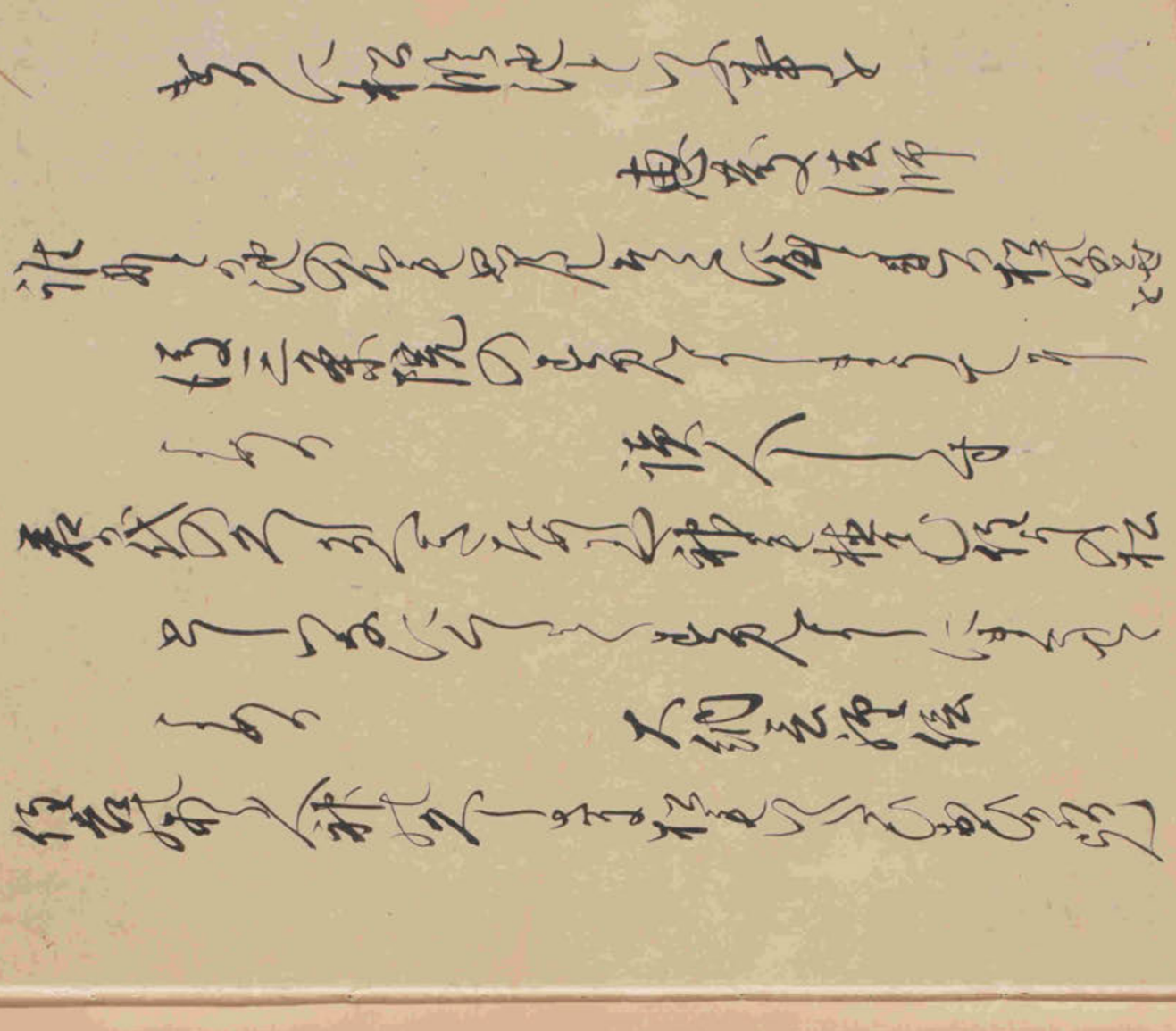
上東門院御屏風十二月つくり

のゝかつらの花ぞ咲ける

おほ納言公任

一とせをいとなみ侍りし後さとりの位の春を待

河原院にて人々ものがたりして歌合侍



詞花和歌集巻第六

別

参議廣業卿

[illegible]

民部卿行

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原輔尹朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原道経

ゆくしむ雁をとも去りて逃さハよをも月の影すなる
大綱云縄結ち幸佛りてくくりもとる
にくしまりにまかりもわひしあり

津守国基

なせりそ君ハまさん結なれまつさ身それいて
涼ひよ結きつ女くくのひくのくまへ
くくりを折よ饑しまそてしまや
能ありけるか

一條院皇后宮

わするゝまじ縁まよむしかひてもせと言まよ交こハ晴の縁をかと

身子よ結きつさしかれあやまらくく
人のくまへまかりけつりしさり楚く
つきにしくくしあり

法橋忠禅

釼ら風葉をとふむさひ象ころかよてつ紗
月ころ人のりくまやくりきろうくう
もろ日わりしにはひくしあり

玄範法師

又こむと計あも元くそいひと○色にすに令ら猿ハ
もわこしへわくり結ろうと人れにもあ結

まれなりけり

寂照法師

とまるへき宿をは月にあくかれてあすの道ゆく夜はの旅人
人のすむよ日ゝに月かけくもりなき
みしにかはらぬいはひかな

備前清胤

千とせふる松をみてもわかよはひなれやかす
大納言経信大宰帥にてくたり侍りける
時俊頼朝臣まかりけるにいひ
つかはしける

右大臣家甲斐

われまつとよそにいかさりし世をいかにせん
橘為仲朝臣みちのくにの守にてくたり
けるに右大臣家の大監物ともかくそ
詠よみて

東路のはるかに道をゆきかへりいつかとまたんさかひの
修理大夫顕季大宰大弐にてくたり
けるとしかへりに馬よせてつかはし
ける

権僧正永縁

立わかれはるかにいきの松なれは恋しかるへき千代のほとかな

詞花和歌集巻第七

恋上

恋ひそめてしくれなゐの色

関白前太政大臣

題しらず

いそのかみふるの山ぶみ人をとはば

前参議実方朝臣

ひくしらぬ袖のぬれぬれにかな

隆恵法師

堀川院御時百首歌

大蔵卿匡房

題しらず

年経ぬる

春の日の長閑なるにつれなくて

平兼盛

春の日の長閑なるにつれなくて

ほどもくるしき恋もするかな

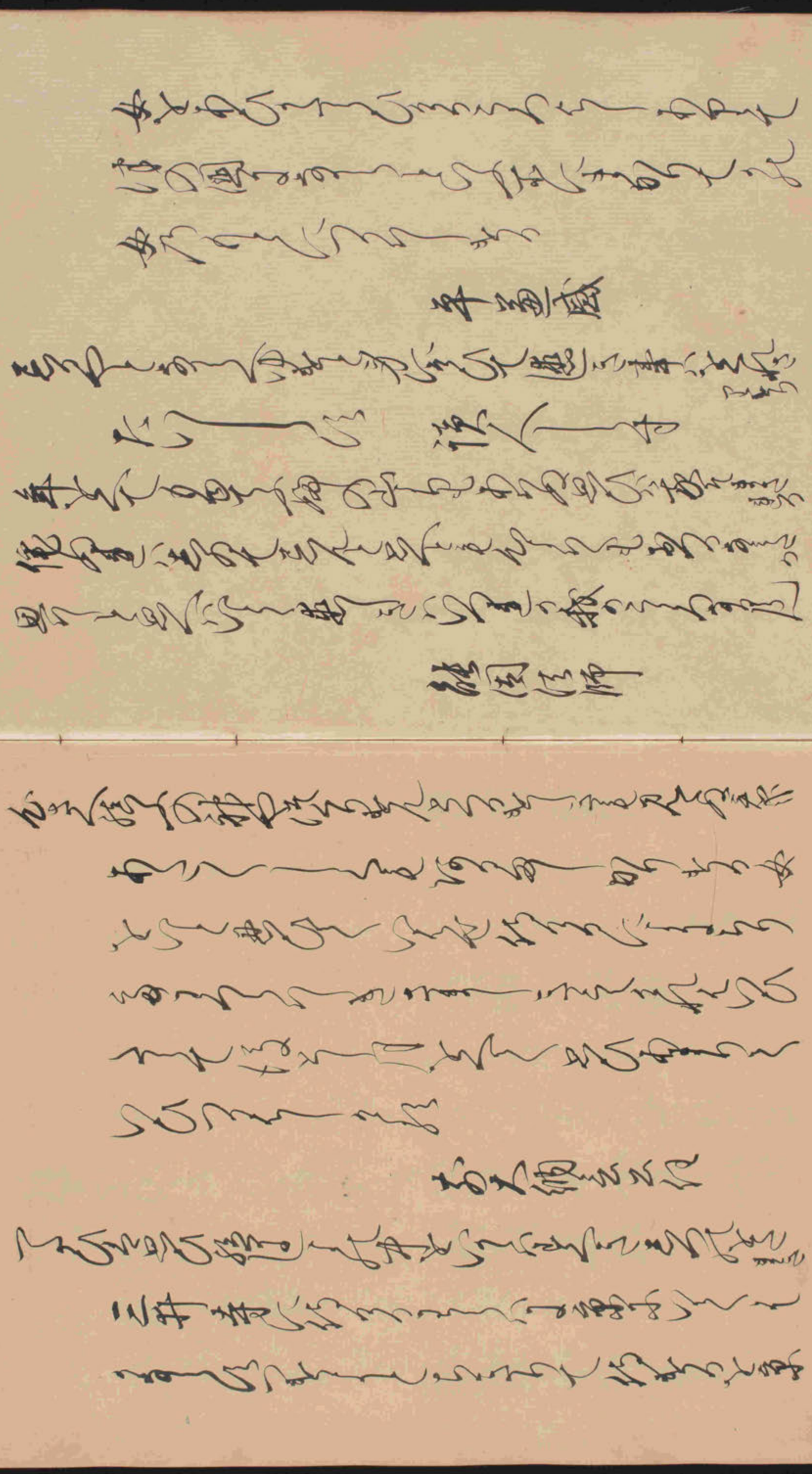
一条院御製

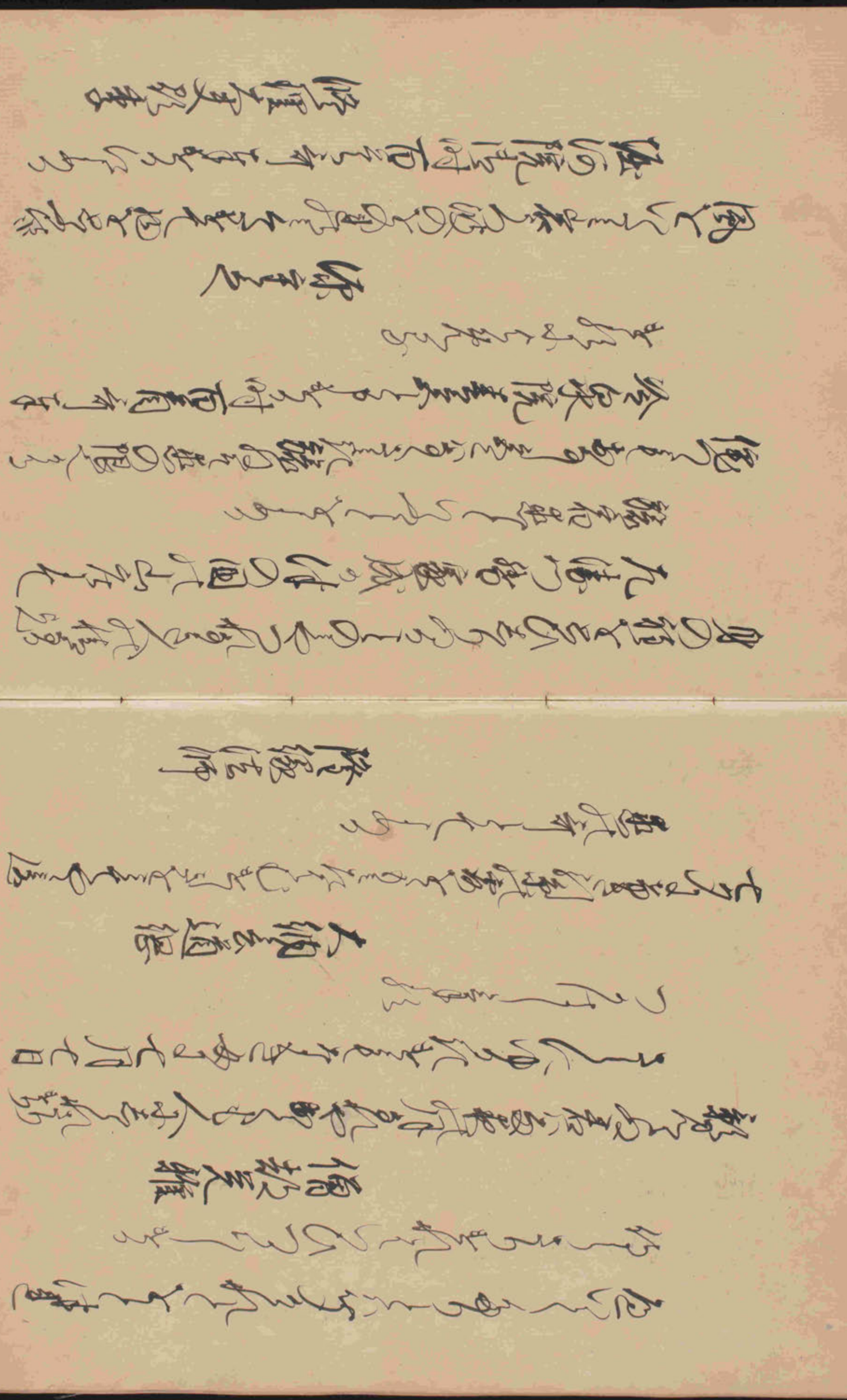
兼盛

よしやさは思ひ絶えぬと月ばかりなれとうらみぬ社なれ

前参議実方朝臣

我恋はなからゐのこすゑもしらつゆのきえなんのちの人のこゝろを
新院にてゐまゝいらせ侍し時よみ侍ける
こしかたも行すゑにかしてそれをたゝ
事とはゝ世をすつるものにならなん
左近衛中将公経
まくらかみすてゝやみにし恋もあれはいかにつらき人のつまなるらん
寛和二年内裏哥合によめる
藤原惟成
命やはあたにも思ひし世中にすみてもなかくありへむとはそ
左京大夫顕輔か家にて哥合し侍り
まつにくちなん
大納言成通
よそにのみ聞しをいかに思ふ事もなくてすきにしむかしなりけれ
寛念法師
来ぬ人をまつとはなしに恋わひてうきをしらねは人やうらみん
行末もすみよしのはまつなしまつ
藤原成助
いかにせん人のつらさを恨てもわかみのうきにかへるこゝろを
たいしらす
浄範法師
我恋はつらき人をもうらみしとおもふものからさらにかなしき





我恋ハ吉野の山の奥なれや思ひいれともしる人もなき

たいしらす　平祐挙

むねハふし袖ハ清見か関なれや烟も浪もたゝぬ日そなき

藤原永實

後よちの稲田錦木をたてそめけるに思ひかけ侍りける
まよみちくわたもしてさせめきつ女の
さらにおつゐしゝてにかへりかれはひ
つかはしける

道命法師

山桜法のまに咲てや折まし人の心をつくさまし

堀川院御時くら人にて侍りけるに縫殿に侍る
女をかたらひ侍りけるを人よりのちに
かれかれになりにけれは人のもとより
こふくしつくのあはれと聞えて
つかはしける

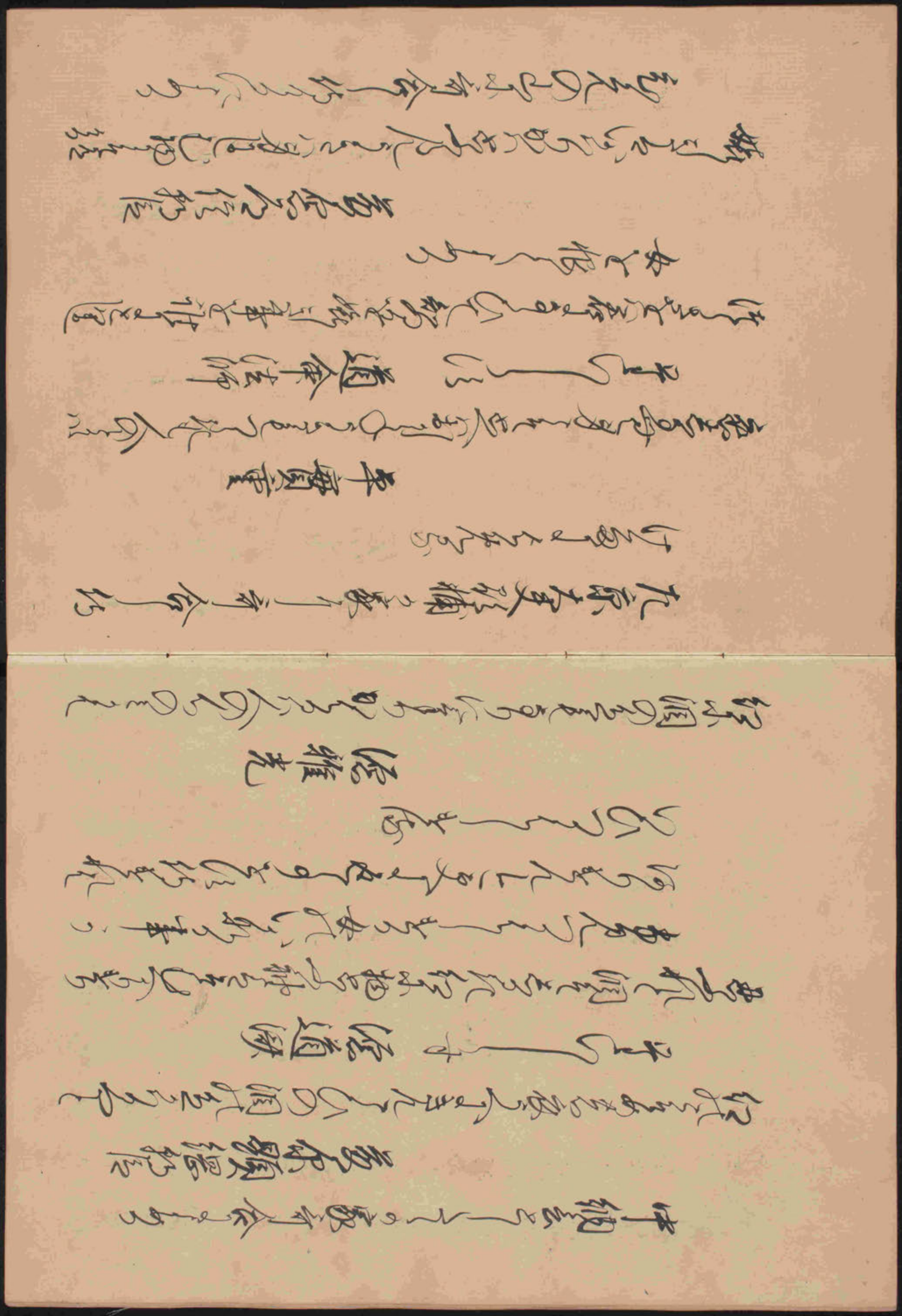
源家時

君をおく人の心ハならひくおもうつりぬる白菊の花

返し　女にかはりて

大納言公實

白菊のかはらぬ色も頼まれすうつろはてやむ秋しなけれは



[illegible]　心覚法師

題しらず　大中臣能宣朝臣

[illegible]寺清水[illegible]のもとの書[illegible]

我恋はたゝうき雲のなびくとも　後人不知

山寺にこもりて思ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]　前右大臣家[illegible]　藤原親隆朝臣

[illegible]　新院御製

[illegible]　前参議雅忠

[illegible]

[illegible]　道命法師

詞花和歌集巻第八

恋下

人しれすまかりかよひける女のもとに
ひさしくまからておとつれもせてはへりけれは
いひつかはしけるにいそかはしき事のはへりけれは
いひ入させ侍ける

藤原相如

君を我おもふ心ハ大はらやいつしかとのみすみやかれ
たえしつゝ

藤原道経

我恋ハあひ初てこそまさりけれしかまのかちの色ならね
とも

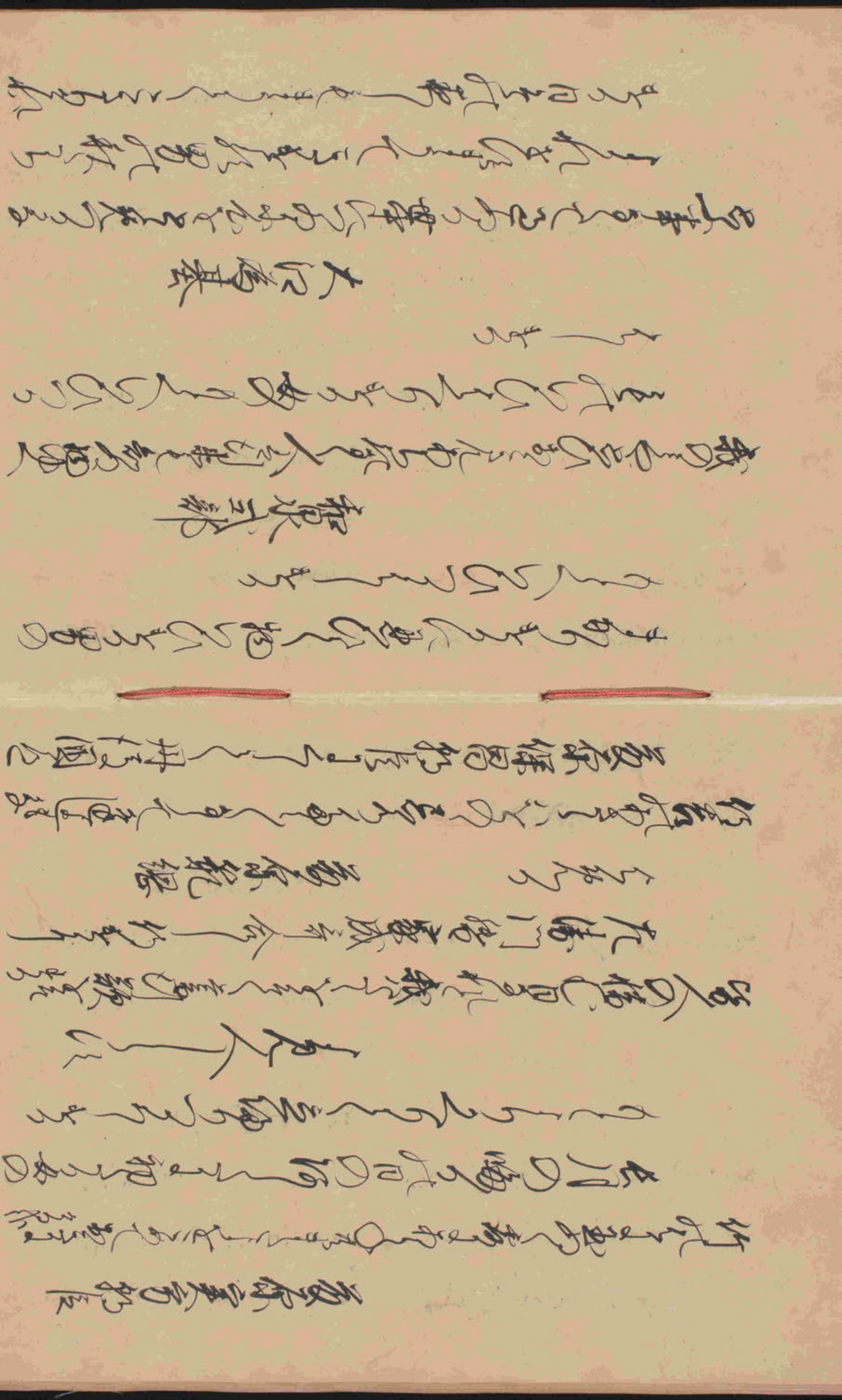
女のもとより暁かへりて立帰りいひ
つかはしける

清原元輔

恋しさに帰りし空もなかりしをいつくらともまとふ道
左京大夫顕輔家にて歌合し侍
けるによめる

藤原顕広朝臣

わかことはとをちへハ瑕つれなきやまれなれぬれを結
ひ
女わかれもなくて帰るくれ
なかれつゝなく



わしの名ふいひつてしまり

一宮紀伊

常ちうと家をちうとと東屋や秋三初すうん
女のりくにまりうちうとまるのいさ
ひまいとちくえるもしわすまーこてを
せくいをれしあう

坂上的道

せうとひう常成をのつてあるかつ初ちえけ

たいーら寺

恵考法師

遠事ふまつくあめうをひまをれいうくを俺ふすや

菩提寺人ちうすをあう

右大臣

いつくとうちうを事れまうるを敷男をる
おうこにうちうをれて弟をうに八月て
うふまくすうおの栽の家をうをとうう
すうをくうあう

赤染衛門

伝をにあうこのう家成まうを伝をうを秋をあき

ふーら寺

男称阿闍

こうちをあうをとを成の家の所をうをうち

新院くらゐにおちて海をとおくさ
ぬ雲ゐ雁を見ていとゝまぬ世をなげくなる
なる人を

閑白おほきおほいとの大殿

こゝろ人を恨も思ひ侵りたる
影ゝらし

和泉式部

夕暮に物思ふ袖をまとはすは
月はゝりもをしまるゝこゝろ
おもゝこの世ゝ物ふれてあり
いひつゝもをる

涙ゝ出ぬ事を御つかひの月をみる
ゝらし

人人しる

思ひそ我ゝ人ゝをこゝろ中に結ぶ
ゝ

平公誠

逢事や涙の玉ゝをつらぬ
ぬ事ゝ物のゝ玉ゝ乱ゝ
の世ゝ人ゝ
さゝ人ゝ
いひつゝけ

家歳法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹のとに霧降かゝるくに独ハめくさんちらこそ

[illegible]

つゝて音信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清原元輔

[illegible]

久しとせぬ男ありけり

後京極親王家大進

[illegible]

男絶てくるしかりける

人のもとよりいとゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとおもしろくおぼえたりしかの大僧正の

[illegible]

常住[illegible]の花の枝あてもなくなびきたるを

[illegible]

大僧正行尊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

関白[illegible]

[illegible]

[illegible]

久[illegible]

今[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞花和歌集巻第九

雜上

[illegible]

源頼家卿作

[illegible]

源俊頼朝臣作

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花山院内大臣

[illegible]

人のもとにまかりてまかりさうらふ

花ありてうぐいすなく行末はかれ

ぬ河のしのひつるかな

右兵衛督実忠

[illegible]

[illegible]

花をおしむこころをよめる

大蔵卿匡房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
入道摂政八幡山頭とうちくいてうち
[illegible]

大納言道綱母

[illegible]
新院位をあらそひ給ふ時宣旨
の御かたにうちまゐらせ給
[illegible]
せ給ふにより

大納言師頼

[illegible]
修理大夫孝重の子[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月をいかに人を恋ふるの心をもとりのこして独や我が心と詠んぬ

中宮職宣旨

ほのぼのとあかつきの月の光をまちて行くに源院の

池の月のうつりて行きもとを詠じて

ながめやるもの思ひをなぐさめ

小一条院御製

池の水に宿る月の影をながめて

左京大夫頼宗

侍中宮亮して行きて

対下臈ようかへりてと関て立の

女房に歌中に歌中にうきもすりて

ふれしてをりて

よし中とあるを三条山に五月のまん限を

田家月とうつしまとりもせのもの

新院御製

月清し田中にそそぐ水の音社見えぬ道

新院位のよりまして時月ゆく行

きの東女房にうつりてをもの

左衛大臣

ながの月の月光に雲に雲に月の光

われをとる月のゆく行

[illegible]

板ぶき月のもとに宿かりて住へるかな　良暹法師

[illegible]

澤辺の[illegible]の[illegible]千枚の板[illegible]月かな　因大臣

山家月[illegible]

[illegible]家[illegible]山里[illegible]

新院殿上[illegible]海[illegible]月[illegible]事を

[illegible]　源道濃

[illegible]　平忠盛朝臣

題しらず　橘為義朝臣

君[illegible]山の[illegible]山の[illegible]入る月をまちつる[illegible]

[illegible]院法[illegible]中[illegible]法[illegible]

如[illegible]法[illegible]月の山[illegible]

[illegible]の月[illegible]

[illegible]

[illegible]　大納言公實

[illegible]月新[illegible]入[illegible]

[illegible]　花山院法製

[illegible]

月はあるく行もうの秋前大納言公任

[illegible]

[illegible]

行かれいつもうつ

中務の卿具平親王

[illegible]

屏風の[illegible]山のうへの月見る人

人[illegible]

大江[illegible]

[illegible]

家に行合

左京大夫[illegible]

[illegible]

山城寺にて[illegible]

[illegible]

人[illegible]

菅原[illegible]

[illegible]

山城の[illegible]

[illegible]

[illegible]

中宮長國

月ゆゑ[illegible]

[illegible]

師にあひて[illegible]

[illegible]

[illegible]

林賢法師

[illegible]

京極[illegible]

大義々注房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師[illegible]

[illegible]

題[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝひよりはるむまとのゝ
ちくわうとうこもれハ

和泉式部

その兄なる人の心ふかうなりて物いまゝしきを
思ひもて男のいと思ひそめ五月雨
の物のあはれなる夜ゆゑ
それかうたんうれしきこゝろ
きりぬすにこめて
わやめ男ありあそこの
保昌にこゝろ
行きもうけ
人をれを思ふ事ハ
ひき歌の
歌石の威房
なりく
のしもの
きりもれて
物のしるひ
行きれくあり
ひき歌の
ひうあをまて
はつ月の
日ふかけ
ひつう
母のなりう
ゆうう

後人しる

思れぬ
たいしら
待賢門院
わゝ人

[illegible]の男の五月雨にとひけ
るもまうこしこうもれぬるあり

[illegible]人しる

[illegible]の里にすまひして雪のうちにすみ侍る遠
人のもとへまかりける男の侍
りけるをまうこしこうもまうにいそがせ
まうれていひつかはしてつかはす
とまうせつかなといはせまうをまて
[illegible]

清少納言

[illegible]すまひしたのめてこゝに雅國
のまうこうの男のいてゝとひまうこさ
[illegible]のかりうの曉よりあのいてくふ
[illegible]れて[illegible]ふいひつかはしまう

江侍従

[illegible]雅國
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

赤染清門

[illegible]
[illegible]
神の宮けさすらの八月たちに
[illegible]

和泉式部

秋ふかき[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

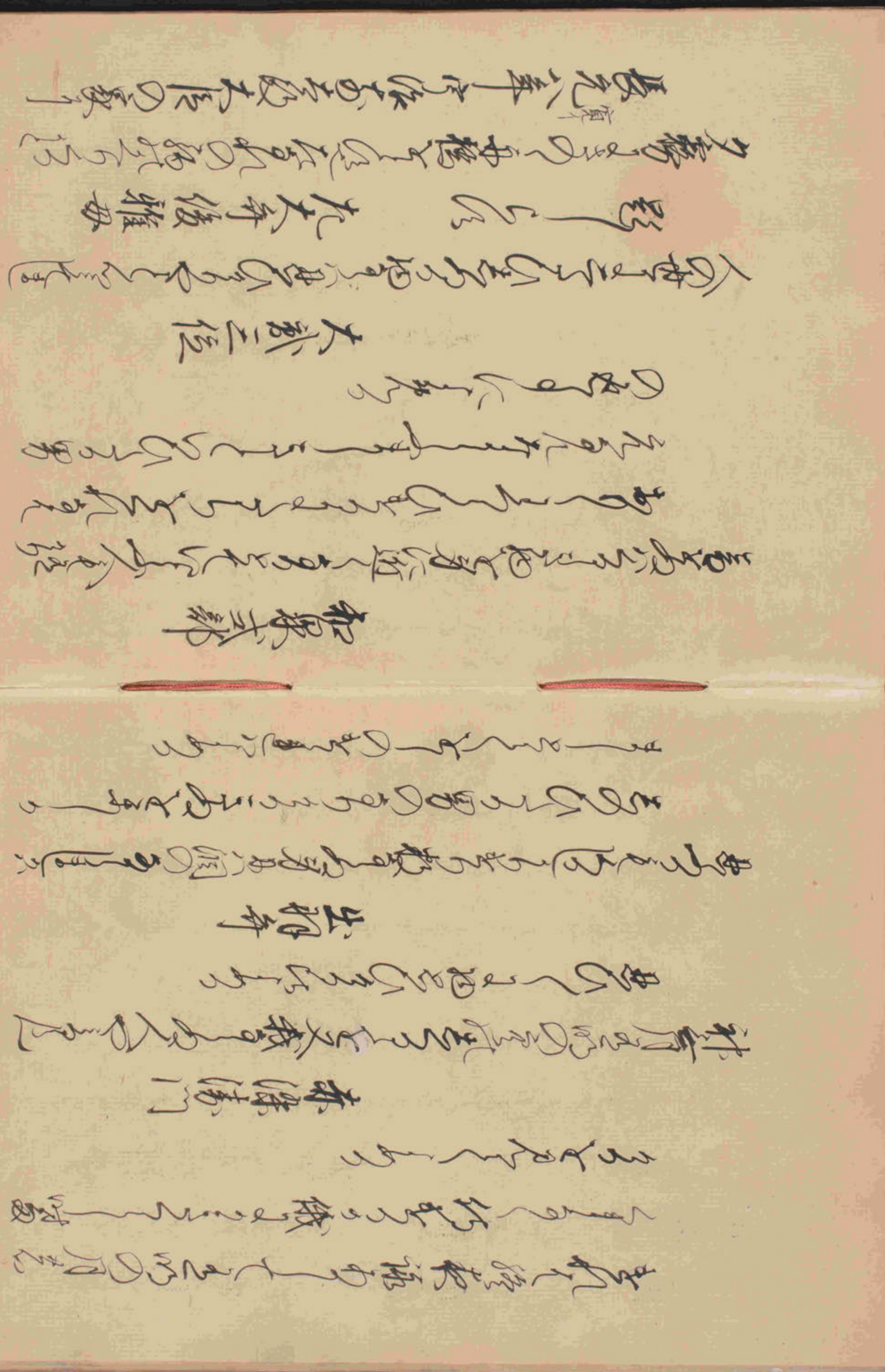
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

式部大輔資業

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国房朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花山院法制

[illegible]

[illegible]

冷泉院法制

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

大納言公任のもとにまかりてまかりけるに

結縁法師

ひさしく山のうちにまかりなれにけるに人をあまたあまたの後二条関白殿のもとにまかりて家中にまかりあるに

まかりいでぬ行くへもしらぬ女房

の中にひとり入ぬるかな

源仲正

三笠山さしてのぼりてつゆもなくてつゆもなくあめのかぎりにまかりこもりにけるに

平経盛

と侍ける源兵衛尉中ゆきて行ぬるかな

ふるひとの五月の日まで明てまつ

長根寺のうちにまかりこもりて

源道済

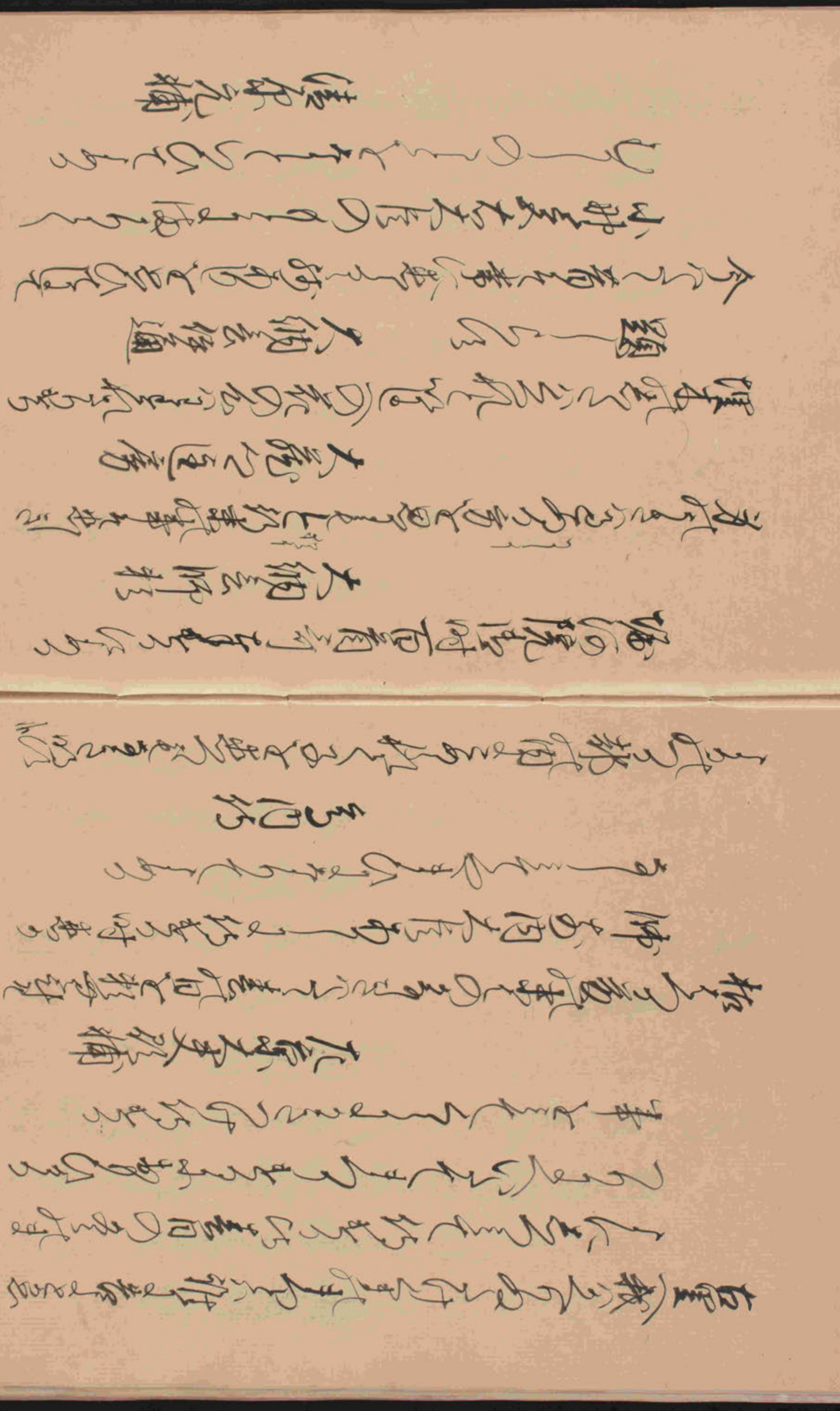
表ひとりまかりこもりたるに

ひとりのみ

陸奥国のかたにまかりけるに

橘為仲朝臣

ふけぬれば松のみとりぞそへまさる



老て侍者を召て酒くませ人めとうまうす

題しらず　加茂政平

約束せしかつら葉くちぬる月日も歌の道

新院の御月を見くて百首奉る

きりぎりす鳴ぬ

いとひなくも松陰すゝむ我身にこそ秋の

秋祇仙孫仲ひろめもとく奇会

行くく者月迷懐しらぬ

とをるんてしとをひくくをりを

きてつゝもち　左京大夫孫補

毎月の夢に宿る月に我ひとりもとゝのまうす

詞花和歌集巻第十

雜下

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中さかりしくきこえたりける

[illegible]

前基法師

[illegible]

秋の野をとまりもとめぬ花の風

よそのひとくとみるくらもあり

花ぞのゝ宮内卿

[illegible]

源親元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言忠教卿まかりこしたりける法
師にてありける

義空忠教良母

[illegible]

[illegible]

法橋清源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月廿日の命婦の侍従の君の
病ありて里にまかりぬるを聞きて三井寺へ
侍りける所の法師のもとへ行ふ
八重紅梅を今は花咲かぬ時なれば
いひ行かれてありけるつとめて
きれいなるつ

大僧正行尊

この頃の花は梅花ちりて世事忙しき
を侍りて身侍りつるとき
人のもとへ行かれけるつ

侍人の家

月を見つつ思ひ出でぬ君なれば
はるかに遠くなりにけるかな

堀基法師

我が宿の梅の花ちりて森のもとは雪
ふるにまがふ

大江以言

紅梅の花ひらけるを見て
大ぞらに位をしめもろこしの
のりをいひつたへけり

良暹法師

大ぞらにまがふばかりの梅の花
我が宿のみぞ雪ふりける

貫名法師

[illegible]

この集撰とく家集ひく仏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大義の道房

[illegible]

法師ふかくのち九条大臣殿

[illegible]の家にて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

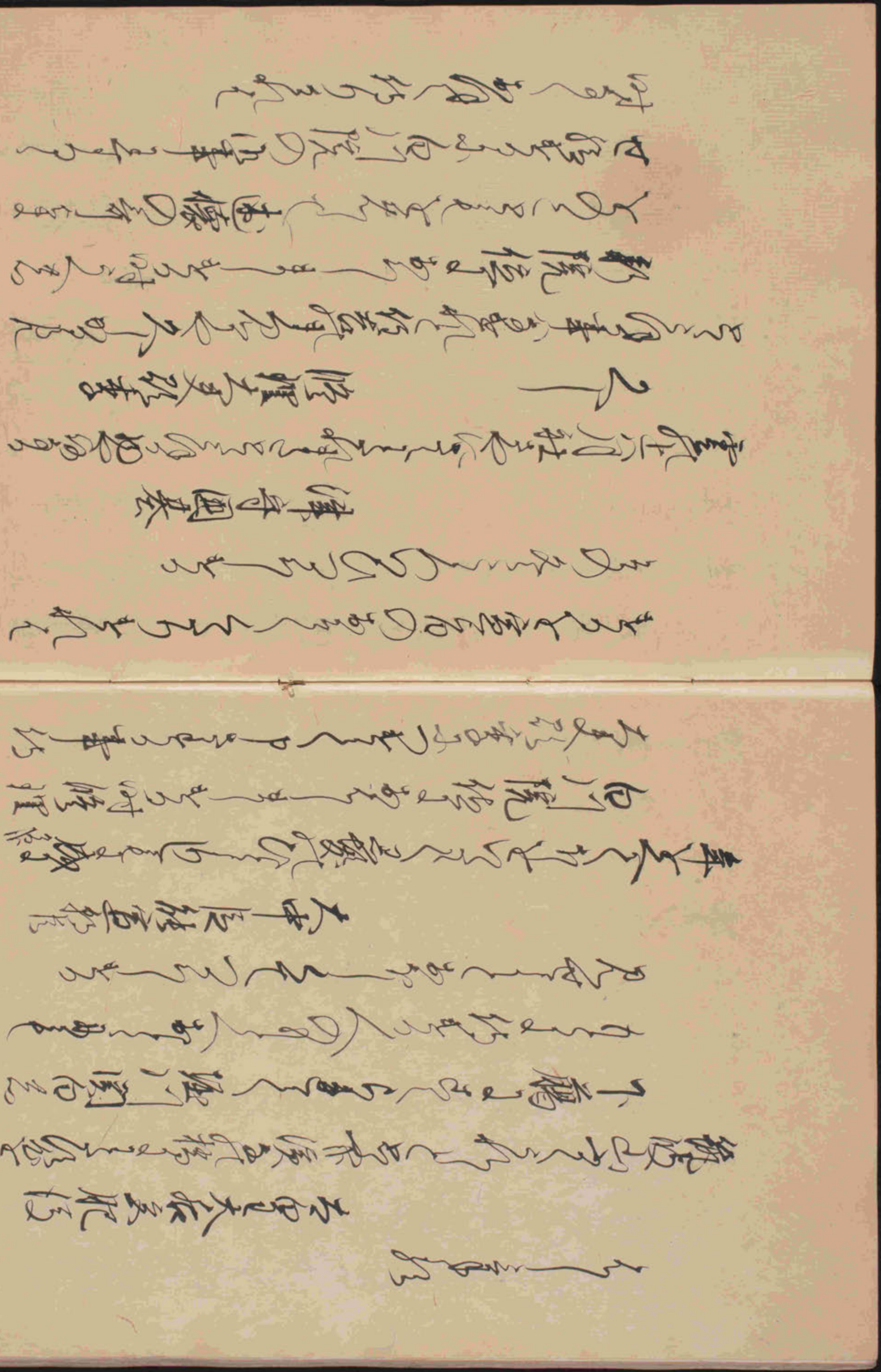
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



大納言成通

鳥羽院御時百首歌奉りける時

大蔵卿匡房

白雲の絶えずたなびく峰にまた
ひとめ見しかな春の桜を

源義国書

春ごとに花のさかりはあれども
あかぬ色とぞ人の散りける

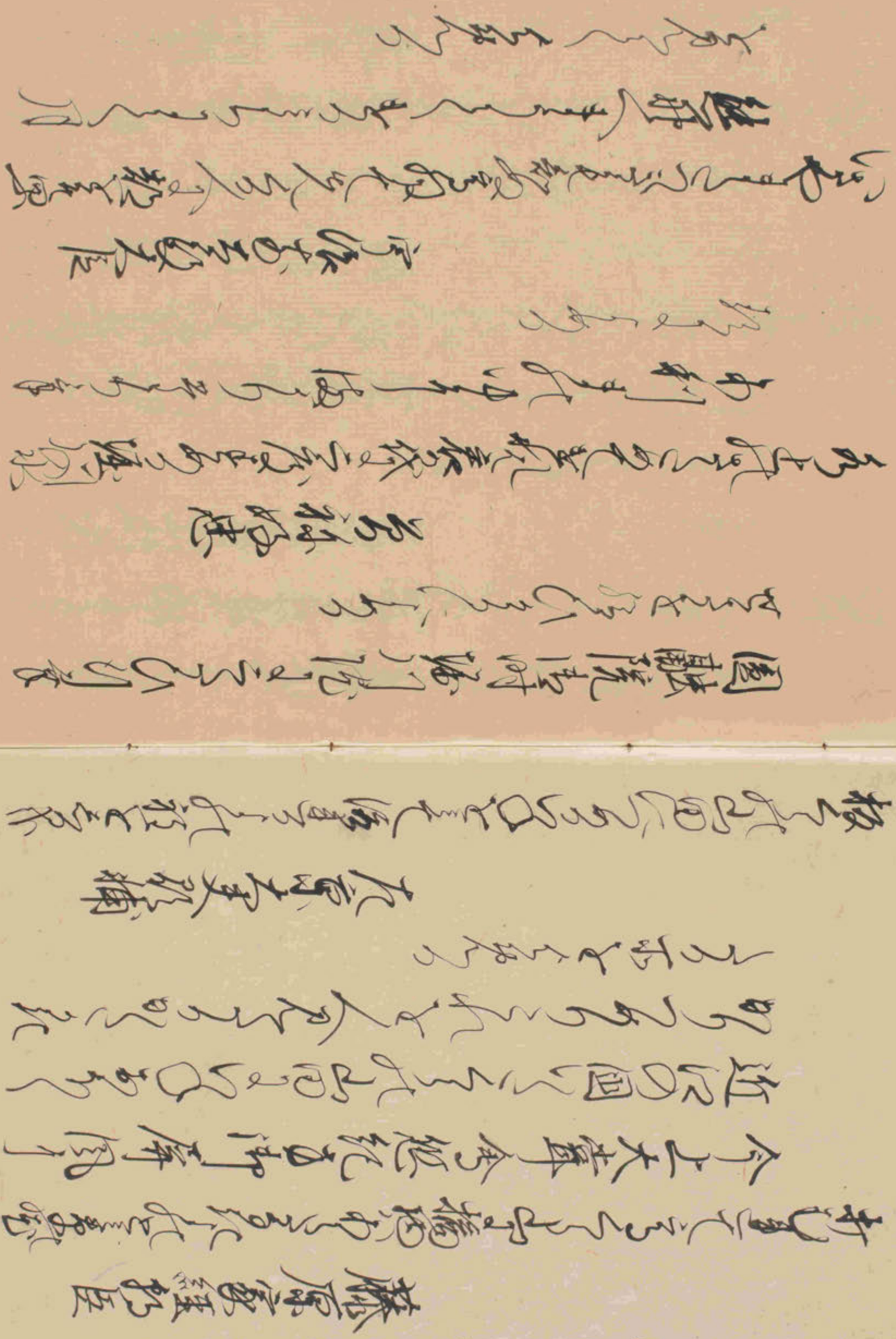
左京大夫顕輔

近江の海を渡りける時

関白太政大臣

とどまらぬ波の上にぞ
よるべなく
いかにひつるの
もとの

新院位の御時海上を
渡りしに
小舟の
まぬ
後冷泉院御時大嘗会悠紀
御屏風に
摂津国たかつの山



[illegible]

道命法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三条右大臣殿まゐりて侍りけ
るとき

お大納言公任

いまはとてうつる月かげ
ひとめあらはしてをれく歌
人は月にわかれをしぬるよりは
もう

兼澄

兼澄朝臣

播磨守中務
そのとき

園融院御製

一条摂政兼家

お和義孝

子のおもひ

行きれてあり

侍賢門院歌

人去れば花のもとにまどはしぬ
面影ばかりとどまりぬ

つくづくはけふ

清原元輔

あひて松のもとにて歌ども

天暦の御時に

七月七日はいとそそらくしまり
秋にあらぬ女房の中にとりて

まきの

ふるさとの天の河のうらに立別れ
ぬ

侍人

七夕ばかりのもとにて

ひとめあるをとれて服さ行くく
ちぬる

神祇伯顕仲

ぬまもや春ふるき墨染の袖と我ぬれ
大江匡衡朝臣

去年をとりてくしあり又の年は

[illegible]

赤染衛門

後冷泉院隆時前人[illegible]

きりぎしの門[illegible]

[illegible]

涙のみ袖よりあふれ出る事を思ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]年九月日の頃修文[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

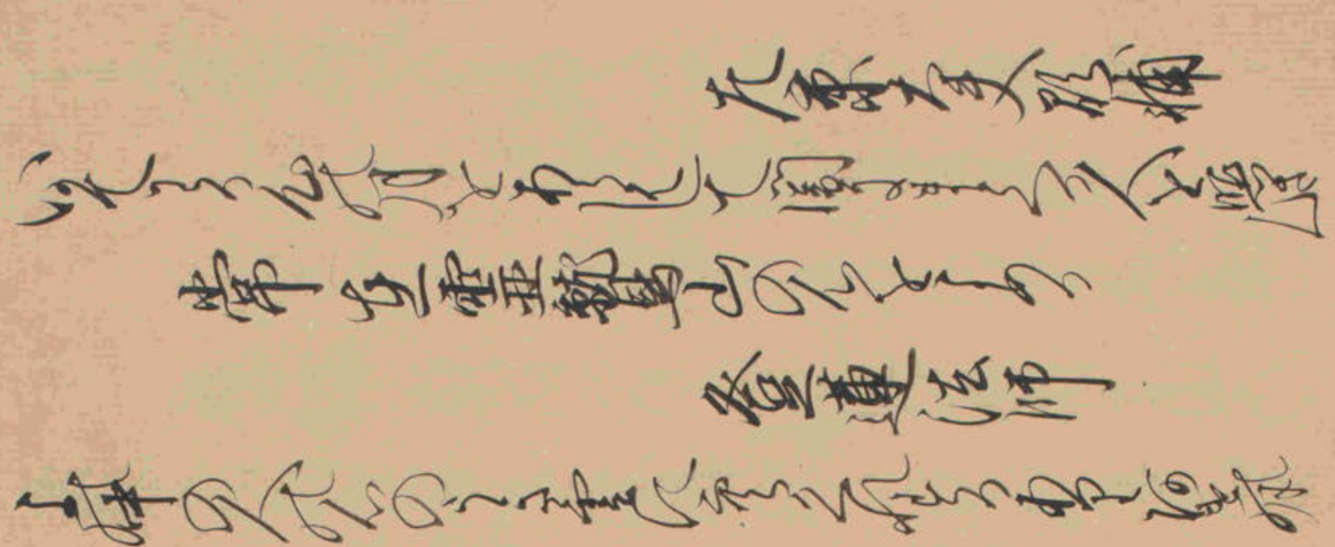
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



132X
104
16